

新春を迎えて

会誌編集委員長 八十島義之助

あけましておめでとうございます。48巻1号をお届けします。引続き毎月1回お手許にお送りしますから、従来にもまして御愛顧いただきたく願います。御期待にそえるように編集陣一同も心を新たに張り切るつもりです。昨年秋以来、当編集委員会では、学会の目的にかなった学会誌のあり方についていく度か話し合いを進め、結論として昭和38年の編集方針をまとめて、それによってこれからの編集を進めることにしました。全文を御紹介するには紙面が少なすぎるので、方針の底に流れている考え方的一端を述べ、会員諸兄の批判と、活用をおおぎたいと考えます。

会員のどなたもが十分読んで下さるように……

学会として会員に報告すべき記事、専門家を対象とする専門記事なども会誌に掲載しますから、いつもはじからはじめで読んで下さいとは申しません。また読んで欲しいばかりに内容を卑俗にしようとも考えません。しかし、みなさんの共通の関心事とか、概説的に取扱って他の専門分野の方々に向く専門記事とかも、これからは、なるべく多く取り入れます。そして親しみやすく読みやすいような編集を心がけます。

不断に進む土木界の歩みに、会員が密着し、先行されるように……

すでに土木界いや社会全体をリードする立場にある会員も少なくないでしょうが、専門分化の進んだ今日、土木界全体の動きの把握しにくい環境にある会員の数も多いはず。僻遠の地に勤務し、話し相手さえ得られなくても、多忙をきわめて講演会、講習会に参加できなくても、毎月の会誌を開いてさえいれば不断に進む土木界の歩みから遊離しない。そのために必要なニュース、展望記事などを常に組み込むように心がけます。

数多くの原稿がすでに到着しています。

会員の多数に発表していただけるように……

当委員会としても会員相互の親睦をはかり視野を広げ

る上から大勢の会員に意見なり報告なりを発表していただきたいと考えています。1編の長さを制限しているのもそのためです。また学術的な研究成果を世に問うといった原稿は月刊論文集に引受けていただくのが建前なので会誌上では原則としては扱いません。

少し、気張って書きましたが、たにぶんにも半素人も多いので、この際ぜひ会員皆さんの批判と活用を仰ぎたいと考えております。そこでお願ひがあります。

意見をどしどし聞かせて下さい……

会誌についてなにごとによらず、また口頭、ハガキ、手紙のいずれによらず、お気づきの点をおきかせ下さい。学会事務局、編集委員会、あるいは編集委員個人にでも結構です。上に述べた事がらが画に描いた餅であったり、羊頭狗肉であっては困ります。そして、さらに良いアイデアを教えていただければ幸せです。15000人の会員すべてがモニターになって下さることを期しています。

投稿を待っています……

論説、随想、報告、解説、資料、寄書、話のひろば、読者の窓、海外事情、ニュース、書評、ロータリー、豆知識、文献抄録などの欄のほかに土木写真の募集もやっています。もちろん当委員会で正規の審査を経ますから100%が掲載されるとは限りませんが、ボツになるのは目下のところまれのようです。一方、委員会からも会員に執筆依頼を致します。手紙一通で御依頼することも時々あります。また会誌上の会告欄のみでお伝えする場合もあります。やり方が手軽すぎるとの非難がないとも限りませんが、人手と財政に限度のある学会のことゆえ、ご容赦願います。

まだ投稿の御経験のない会員も、ためらわないで原稿をお寄せ下さい。投稿規程と原稿用紙は御一報下されば事務局がすぐお送りいたします。

御多幸を祈ります。